神奈川県立秦野支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和6年度 秦野支援学校 第1回 学校運営協議会
開催日時	令和6年5月27日 9時30分～11時30分
開催場所	秦野支援学校 落合校舎2階会議室
出席者	運営協議会委員（本校校長含む） 10名 ※欠席者なし 事務局教職員 13名
会議資料	第1回学校運営協議会次第、学校運営協議会運営計画、秦野支援学校グランドデザイン、令和5年度学校評価報告、令和6年度学校評価報告書（目標設定）、各部門・課程・グループの学校評価（目標設定）具体的な方策、各部門・課程・グループ 取組の重点、令和6年度不祥事ゼロプログラム
議事録	1 学校長挨拶 2 学校運営協議会委員、委員委嘱並びに自己紹介、会長選出、会長挨拶 3 事務局自己紹介 4 協議 ① 令和6年度学校経営について ・新しいグランドデザインを作成。これまでの積み重ねに、今の社会を反映させて作成している。「自分の可能性をきりひらく」「地域のフロントへ」を大切にしていくことを示している。 ・教育課程をよりよくしていくために、安心安全な学校環境のために、将来の社会生活のために、センター的機能の充実のために、支援の必要な子どもに対して何をしていくか、地域の皆様と共同して行っていく機関としてありたい。 ・学校の教員不足はあるが、この人員の中で最大の力を発揮していきたい。 ・防災について、場所が4つ分かれていることで実際どうなるのか考えていかなければならない。登下校中、校外行事の中で起こる可能性もあり、地域の皆さんと一緒に考えていきたい。 ② 令和6年度学校評価（目標設定について） ・個別教育計画に基づいた授業づくり、ICT機器の利活用、アセスメントに基づいた指導、小中高一貫した指導、余暇活動の充実、センター的機能、地域資源の活用、交流及び共同学習、居住地の学校との関わり、地域との防災体制の確認、働き方改革 等を目標に掲げて取り組んでいく。 ＜質問、意見、感想等＞ ・一時避難所、福祉避難所の機能など、地域と情報を共有する必要がある。東日本大震災の時を振り返えると、細かな確認をしなくてはならない。 ・職員の欠員がある状況で、学校が回っているのか、働き方改革はできているか → 業務内容な行事運営など、今までと違うやり方を考えながら取り組んでいかなくてならない。 ・グランドデザインは分かりやすい。実践していくよりどころになる。 ③ 各グループ・部門・課程の取組の重点について ＜質問、意見、感想等＞ ・防災について安全管理のマニュアルや課題点等を地域と共有してほしい。避難方法や訓練なで一緒に考えていけることはある。 ・教員が清掃をしているとのことだが、教員の仕事は何なのか考えてよいのでは？ ・人員不足は県だけで解決できるレベルではない。学校に対して、教育に対して予算を付けてもらわないといけない。教員を希望する人が増えない。 ・畑の管理もほとんど教員で行っているので、協力体制について考えなくてはならない。 ・グループの取組で、肢体部門でコミュニケーションを大切にしていることはとても重要、様々なところで大事にしてほしい。知的部門高等部で、地域を学びの場にして、職業自立、スポーツ、文化活動など多面的な活動を用意することは重要である。末広校舎での太田ステージを分かりやすくまとめた取組はすごい努力である。 ・生徒のライフステージの中でが関わりのある卒業後の事業所として、アセスメント、個別教育計画、防災について協働の中に入れてもらいたい。 ・取組を年度をこえて継続していくためにはどのような手立てをしているのか？ →教員が半分入れ替わる状況。様々な計画で経験のある教員と未経教員と一緒に行うことで、できるところから業務が引き継げるようにしている。 ・卒業後、社会へ出てからどこまでサポートしているのか？ →卒業後3年間を目安にアフターフォローを行っている。その後に連絡が入る時はケースに合わせ対応している。 ・末広小学校とF末広の関わりは、施設面だけでなくソフト面もこれまで以上にいろいろなことを進めていきたい。総合学習や委員会活動などできるだけ子ども発信の内容を進めていきたい。 ・社協は災害ボランティアセンターの機能もある。平常時から連携して、だれがどのような役割で行うのかなど、まだまだ確認することがある。一緒にできるところを探っていきたい。 ・人材不足については、業務を切り分けると資格経験がなくても仕事に関われる。効率よく業務ができるとよい。 ・人材活用で教員それぞれが得意なことを集団授業に生かす、という視点はとてもよい。 5. 事務連絡 次回 7月30日（火）